



Ginko Magnet

吟子像のマグネットボタンをどうぞ。

この荻野吟子の写真は野口家の茶の間にあったものが熊谷空襲で焼失。野口家は吟子の姉ともの嫁ぎ先。いまは八木橋前の野口医院。時に、明治18年公許女医第一号“吟子”の誕生の直前。熊谷に戻った吟子の姉“とも”の家に泊まった翌日、近くの写真館で撮影されたようだ。

吟子34歳、丸椅子に座り帽子を手にもち、軽く右半身に胸をそった姿“鹿鳴館スタイル”は有名。前半生の頂点のころであった。そして時が過ぎ、吟子の没年の大正初期、熊谷の小暮写真館で吟子の最初の写真を複写したようだ。

やがて、昭和のカラーの時代。荻野吟子像はこれらモノクロ写真から、カラー写真となっています。そして、令和の世、吟子像は“マグネットボタン”とり、“荻野吟子記念館”で定着しようとしています。

記念館訪問の記念に、どうぞ!!
令和4年10月から揃えています。